

岩船大豆情報 No.1

平成27年4月23日
村上農業普及指導センター
J A に い が た 岩 船

1 27年産大豆「高品質・多収栽培」のポイント

- ・作付ほ場の団地化（周囲水遮断）
- ・排水対策の徹底（周囲明きよ、弾丸暗きよの実施）
- ・種子消毒、播種後除草剤散布の徹底
- ・中耕・培土の2回実施
- ・開花期以降の基幹防除、子実害虫防除の徹底
- ・適期収穫の実施

目標収量 270kg/10a

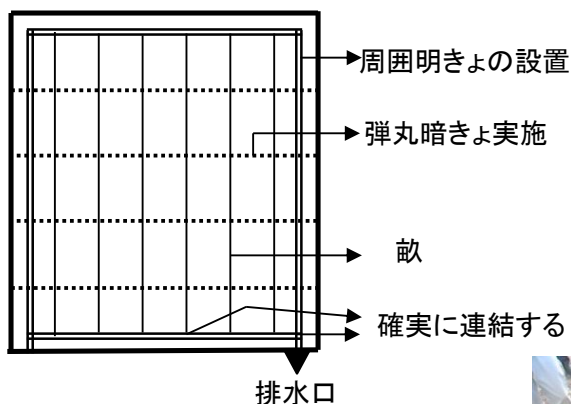
目標品質 2等級以上50%

【参考】村上地域における大豆の検査状況 注)「岩船地方における稲作概況」より

年度・品種名	検査数量 (個/30kg)	等級比率(%)					
		1等	2等	3等	合格	規格外	
H26	エンレイ	10,859	0.0	12.6	56.9	29.8	0.8
	あやこがね	1,280	0.9	0.0	67.0	32.1	0.0
	里のほほえみ	1,206	0.0	63.4	33.2	3.1	0.4
	合計	13,345	0.1	16.0	55.7	27.6	0.7
H25	12,226	0.0	1.7	29.6	61.6	7.0	
H24	16,141	2.6	8.1	24.8	63.7	0.8	
H23	9,437	7.4	28.3	53.1	10.0	1.2	
H22	12,026	0	12.8	56.8	27.3	3.1	
H21	16,473	16.9	30.3	46.4	6.3	0.1	

2 排水対策の徹底

排水対策のイメージ図



排水対策のポイント

- ① ほ場周囲に明きよを掘り、排水口に確実につなげる（溝幅20～30cm、深さ30～40cm）。
- ② 弾丸暗きよは深さ30～45cm、間隔は透水性の悪いほ場では2～3mおきに施工し、透水性の良いほ場では間隔を広げる。
- ③ 畝立て播種を導入する。

周囲明きよ及び弾丸暗きよの施工例

- ・深さ40cm
- ・幅30cm



3 種子消毒

種子消毒により、ネキリムシ類、タネバエ、苗立枯病、紫斑病などを適切に防除しましょう。
クルーザーMAXXを使用する場合は、キヒゲンR-2フロアブルの処理は不要です。

薬剤名	処理方法	種子1kgに対する塗沫量	対象病害虫
クルーザーMAXX	塗沫処理	8 ml	茎疫病、紫斑病、苗立枯病(ピシウム菌)、リゾクトニア根腐、黒根腐病、アブラムシ類、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、タネバエ

4 施肥

大豆は多量のカルシウムと窒素を必要とします。このうち窒素吸収は、根粒からの供給が大半を占めます。根粒菌は酸性土壌を嫌うため、石灰質肥料は必ず散布しましょう。

基肥成分量は、10a当たり窒素1.5～2.5kg、リン酸6～8kg、カリ6～8kgを目安としましょう。

	資材名	施用量 (kg/10a)	成分率(%) N-P ₂ O-K ₂ O	成分量(kg/10a)			
				N	P ₂ O ₅	K ₂ O	アルカリ分
酸度矯正 土壌改良	粒状苦土炭カル(M-10)	130	アルカリ 55	—	—	—	71.5
	シェルフミン(粒状貝化石)	200	アルカリ 35	—	—	—	70.0
	ケイカル(粒状)	160	アルカリ 45	—	—	—	72.0
	70粒状石灰	100	アルカリ 70	—	—	—	70.0
基肥	ニュー大豆800	20	8-30-20	1.6	6.0	4.0	—
	卵殻入りケイフン ※	90	2-4-2	1.8	3.6	1.8	16.2
	有機入り大豆配合2号	20	8-12-14	1.6	2.4	2.8	—

注※ 基肥に卵殻入りケイフンを使用する場合は、酸度矯正・土壌改良剤は1～2割程度減量する。

5 耕耘、播種

出芽苗立ちや除草効果を高めるため砕土率(直径2cm以下の土塊割合)を70%以上としましょう。

- ① 排水対策を早めに行い、ほ場をよく乾かす。
- ② 排水不良、重粘土質ほ場は、できる限りほ場が乾いた条件の良い日に耕耘作業を行う。
- ③ 耕耘・砕土・整地の作業は、連続作業で行う(耕耘後に降雨があるとは場が乾きにくくなる)。
- ④ 作業速度を落とし、耕耘ピッチを小さくする(1回目の耕耘で細かくすることが効果的)。
- ⑤ 播種後に晴天が続くと予想される場合は、播種深をやや深めする。

播種時期と播種密度のめやす

播種時期	5月末～6月10日	6月11～20日
エンレイ	9～10粒/m ²	13～18粒/m ²
あやこがね	13～15粒/m ²	16～19粒/m ²
里のほほえみ	13～15粒/m ² (6月に入っては種きましょう)※暫定値	

6 雑草対策

耕耘前雑草が多いと、出芽・苗立ちの低下を招くときがあります。あらかじめ枯殺しておきましょう。

耕耘前に茎葉処理剤で雑草を防除するときは、周辺の水稲に飛散しないよう留意しましょう。

播種後の除草剤は除草効果を安定させるため、播種直後、土壌が乾燥する前に散布しましょう。

- ・農薬は、農薬使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬を使用する際は最新の登録状況やラベルを良く確認し使用しましょう。
- ・農薬は、平成27年4月 8日現在での登録状況により掲載しています。

